

科目名称	☆日本文化史	科目分類	401-310-11
担当教員	遠山 元浩	授業区分	講義
研究室	—	オフィスアワー	—
授業のテーマ・内容	本講義は、日本の宗教文化の特徴や歴史について考察するものである。 講義初頭に日本の宗教文化の特徴や歴史について概説。その後、神仏習合と本地垂迹説に関わる各種宗教絵画や高僧伝絵巻（国宝『一遍聖絵』など）を使用し、日本に於ける仏教と神道および既存信仰との密接な繋がりを紐解き、その理解を深めていく。		
到達目標	日本の信仰形態の変遷を時代を追って再検証し、その時代ごとの特徴を把握。時代ごとの解説に取り上げた信仰形態や対象物をより深く理解するため、その地域の空間的要素の把握から、信仰対象の偶像的表現方法として使用された絵画や彫刻などを、その分野や形態、特徴的技法などをふまえて、本質をより深く理解する。その上で、日本人の生活の中に溶け込んでいる宗教とは何なのかを再検証しつつ、自らまとめ上げる事を、到達目標とする。		
各回の授業内容と課題学習			
第1回	授業の進め方・内容の概論		
第2回	日本の宗教文化 祈りの先にあるもの（神様仏様）		
第3回	日本の宗教文化 祭事・儀礼		
第4回	日本の宗教文化 自然崇拜		
第5回	日本の宗教文化 縄文から続く信仰表現		
第6回	日本の宗教文化 祖霊信仰と天照大神		
第7回	日本の宗教文化 仏教公伝前後		
第8回	日本の宗教文化 神仏習合と本地垂迹		
第9回	日本の宗教文化 偶像崇拜		
第10回	日本の宗教文化 古代から中世の信仰		
第11回	日本の宗教文化 密教と顕教における宗教美術		
第12回	日本の宗教文化 浄土信仰		
第13回	日本の宗教文化 末法思想と阿弥陀		
第14回	日本の宗教文化 善光寺・二河白道と十一不二頌		
第15回	日本の宗教文化 観音信仰と巡礼 (研究発表と課題の確認)		
第16回	日本の宗教文化 垂迹絵画から読み解く		
第17回	日本の宗教文化 浄土絵画と変相図		
第18回	日本の宗教文化 熊野信仰 本宮の浄土観		
第19回	日本の宗教文化 熊野信仰 新宮の信仰		
第20回	日本の宗教文化 熊野信仰 那智と補陀落渡海信仰		
第21回	日本の宗教文化 高僧伝絵巻や尊像等から読み解く		
第22回	日本の宗教文化 『一遍聖絵』から読み解く描かれた自然崇拜		
第23回	日本の宗教文化 『一遍聖絵』から読み解く人物描写の意図		
第24回	日本の宗教文化 『一遍聖絵』から読み解く行事と名所		
第25回	日本の宗教文化 祖師信仰から読み解く		
第26回	日本の宗教文化 寺院と庶民のつながり		
第27回	日本の宗教文化 庶民信仰の中にある年中行事		
第28回	日本の宗教文化 民間信仰と既存宗教の関わり		
第29回	日本の宗教文化 近現代の信仰形態		
第30回	成果報告と展望		
テキスト・教材	適宜参考資料等を配付する。		
参考書	必要に応じて指示する。		
評価の基準と方法	授業の平常点・各講義の課題の達成度（30%）、課題レポート（70%）で総合的に評価する。		

授業開始前学習	先行研究や用語の意味などを事前に確認し、授業に臨んで欲しい。				
授業内課題のフィードバックの方法	学びの節目事に、己が得たポイントを元に討論 疑問点などを軸に、さらなる研究を掘り下げる 中間と期末に討論を重ねた成果を発表、今後の研究進化につなげる				
準備学習（予習）	授業で使用する予定がある原典史料の基礎事項について事前に確認しておく事。				
準備学習（復習）	授業中に用いた歴史史料や絵画史料、および特定の地域における信仰形態や社寺仏閣などは、その作品の詳細情報を個別に再確認する。				
ディプロマポリシー	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化に関する研究成果を広く社会に発信できる人材の養成。		
学修指針	教養力	人間性	専門力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△	○		
関連科目					
その他					

科目名称	☆日本文化論	科目分類	401-310-11
担当教員	佐々木 俊道	授業区分	講義
研究室	10-504	オフィスアワー	前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10
授業のテーマ・内容	主に日本仏教を中心に扱う。日本仏教は一般に葬式仏教だとも言われている。よって祖先崇拝の日本的展開を見ていくことにより、日本人の霊魂観、他界観等が明らかになる。なぜなら、仏教は、日本に伝来してから土着の宗教と融合、混交、習合、軋轢を繰り返して今日に至っているからである。特に本講座は仏教を文化現象として捉え、思想だけでなく、祖先崇拝も含めて通仏教的に概観していく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 仏教の開祖釈尊の生涯と教えに関する専門知識を修得する。 2. 道元禅師の生涯と教えに関する専門知識を修得する。 3. 日本仏教史に関する専門知識を修得する。 4. 日本の民俗仏教に関する知識を修得し現代仏教の諸問題に対し提言できる。 		
各回の授業内容と課題学習			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教養としての釈尊の生涯 2. 釈尊の教え 3. 仏教の基本思想 4. 仏教伝来以前の日本の土着宗教・霊魂観 5. 仏教伝来以前の日本の土着宗教・他界観 6. 日本的アニミズム 7. 仏教伝来から飛鳥時代・白鳳時代の仏教と文化 8. 奈良時代の仏教と文化 9. 平安仏教・最澄の生涯と教え 10. 平安仏教・空海の生涯と教え 11. 国風文化と浄土思想の展開 12. 平安末期の仏教と末法思想 13. 鎌倉仏教・法然 14. 鎌倉仏教・親鸞 15. 鎌倉仏教・栄西 16. 鎌倉仏教・道元 17. 鎌倉仏教・日蓮 18. 仏教の地方展開（特に神仏習合について） 19. 土着宗教の仏教的展開・神人化度と受戒 20. 土着宗教の仏教的展開・一向一揆 21. 日本の「道」と伝統文化 22. 仏教と祖先崇拝 23. 幕藩体制と仏教 24. 学問仏教の展開・特に曹洞宗の伝統宗学 25. 幕末から明治にかけての廃仏毀釈 26. 近代から現代への仏教の展開 27. 現代日本仏教の現状と課題 28. 禅仏教を中心とした北米・ヨーロッパへの展開 29. 寺院仏教の現代的実践と課題 30. 仏教の未来への展望 			
テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配付する。		
参考書	佐々木宏幹『ほとけと力 日本仏教文化の実践』吉川弘文館。		
評価の基準と方法	定期試験においてレポート提出を実施し、それを評価全体の60%とする。残りの得点配分は、授業中に指示する課題提出が20%、授業への参加姿勢、研究活動の内容が20%という目安になる。		

授業開始前学習	仏教学の基礎的知識を学習しておくことと授業が理解しやすい。各回の授業においては、授業前にテーマに関する専門用語を調べておくことが望ましい。				
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、疑問点や課題を話し合い、教員からもコメントして問題意識を共有する。さらに 2 週間後に質問や諸問題について教員が回答する。				
準備学習（予習）	次回の授業範囲を毎回予告するので、テキストの予習範囲に登場する人名、出来事、仏教語などの用語を予め調べておくこと。				
準備学習（復習）	その日の授業内容について、ノートにポイントを箇条書きで要約し、その都度まとめていただきたい。また予習で事前に調べてあった人名、出来事、仏教語などの用語について、確認しておくこと。				
ディプロマポリシー	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化に関する研究成果を広く社会に発信できる人材の養成。		
学修指針	教養力	人間性	専門力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△	○		
関連科目	宗教文化史、日本文化実習、日本文化論特殊講義、日本文化史特殊講義、古典講読演習。				
その他	院生ならば当たり前であるが課題に真摯に向き合って、積極的に授業に取り組んで頂きたい。				

科目名称	日本文化史特殊講義 B	科目分類	401-320-11
担当教員	今野 慶信	授業区分	講義
研究室	—	オフィスアワー	—
授業のテーマ・内容	現代につながる「中世文化」をテーマに、鎌倉時代に成立した史料を講読・解説しながら、中世文化を考察していく。具体的には、鎌倉幕府の歴史書『吾妻鏡』、説話集『古今著聞集』、文芸作品『平家物語』『曾我物語』を通して、中世文化を見ていく。		
到達目標	中世文化に関する知識と研究方法を修得し、日本文化の歴史的背景を理解して、自らの興味・関心から専門的研究ができる能力を身に着ける。		
各回の授業内容と課題学習			
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 授業内容の確認 2 『吾妻鏡』解題 3 東京低地の熊野信仰 4 『吾妻鏡』に見る諸道①（武士道 その1） 5 『吾妻鏡』に見る諸道②（武士道 その2） 6 『吾妻鏡』に見る諸道③（仏道） 7 『吾妻鏡』に見る諸道④（歌道） 8 『吾妻鏡』に見る諸道⑤（華道） 9 『吾妻鏡』に見る諸道⑥（書道） 10 『吾妻鏡』に見る諸道⑦（茶道） 11 『吾妻鏡』に見る諸道⑧（その他） 12 『古今著聞集』解題 13 中世文化史研究史① 14 『古今著聞集』に見る中世人の生活① 15 『古今著聞集』に見る中世人の生活② 課題レポートの提出 16 レポート講評 17 中世文化史研究史②（芸能史） 18 『吾妻鏡』に見る人間関係（主従関係） 19 『吾妻鏡』に見る人間関係（親子関係） 20 『吾妻鏡』に見る人間関係（兄弟関係） 21 『吾妻鏡』に見る人間関係（男女関係） 22 『吾妻鏡』に見る人間関係（その他） 23 『平家物語』解題 24 『平家物語』と寺院社会 25 『平家物語』を伝えた人々 26 『曾我物語』解題 27 『曾我物語』と東国社会 28 『曾我物語』と女性たち 29 総括 課題レポート提出 30 レポート講評 			
テキスト・教材	プリントを配布する。		
参考書	授業時に紹介する。		
評価の基準と方法	平常点（30%）、レポート（70%） （平常点の内容は、授業への取り組みに対する評価などによる。）		
授業開始前学習	学部時代に学んだ文化史関連授業及び自らの卒業論文等を整理し、中世文化史について復習しておくこと。		
授業内課題のフィードバックの方法	実施の1週後、授業において好評を行う。		

準備学習（予習）	事前に配布された史料について、自分なりに購読し、用語等について調べておく。				
準備学習（復習）	授業を振り返り、学んだことや疑問点等を整理しておく。				
ディプロマポリシー	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化に関する研究成果を広く社会に発信できる人材の養成。		
学修指針	教養力	人間性	専門力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	
関連科目					
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。				

科目名称	仏教文化演習	科目分類	401-320-21
担当教員	安藤 嘉則	授業区分	演習
研究室	10-505	オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:00 後期 火曜日 09:00～12:00
授業のテーマ・内容	本演習は仏教文化について茶道・華道・能楽などの伝統芸道をはじめとする様々なことごとについて、関連資料を読み解きながら仏教文化に対する深い知識を身につけるとともに、各自の研究テーマに沿った、研究指導および修士論文作成指導を行う。		
到達目標	仏教を中心とした宗教文化、武道・芸道などの伝統的な文化などについてより高度な学修と研究成果を発表するとともに他者の発表や意見についても積極的にコメント・レスポンスする能力を身につけていく。		
各回の授業内容と課題学習			
<ol style="list-style-type: none"> 1.卒業論文の内容発表 2.卒業論文の内容についての質疑応答 3.仏教文化に関する資料検索の方法 4.仏教文化関連資料の読解の方法と技術 5.仏教文化に関する資料について 6.仏教文化関連資料の扱い方、撮影等について 7.仏教文化に関する研究テーマ設定の考察 8.修士論文の完成までの指針の作成 9.修士論文の為の参考図書及び参考論文の提示 10.参考資料・基本的文献・基礎資料の提示 11.仏教文化関連資料に関する研究状況の確認 12.仏教文化関連資料の読解 13.仏教文化関連資料の分析 14.仏教文化関連資料における問題の所在の確認 15.仏教文化研究のための研究方法の確認 16.研究計画の内容作成と発表 17.研究内容に関する質疑応答 18.修論完成までの指針の作成 19.修論のための参考図書、参考論文の提示 20.関連する研究論文のリストの作成 21.関連する研究論文の読解 22.関連する研究論文からみた課題の確認 23.関連研究論文に対する批判 24.関連する研究論文から基礎資料の抽出 25.修論の構想をまとめる 26.修論の課題と該当資料の読解 27.資料の読解のための知識の習得 28.資料の読解と個別の課題 29.研究成果の発表 30.研究発表のふりかえり 			
テキスト・教材	仏教文化に関する研究文献を講読していくが、テキストについては院生の研究テーマに応じて教員が決定する。		
参考書	『仏教文化事典』佼成出版社		
評価の基準と方法	前期レポート50%、後期レポート50%		
授業開始前学習	『仏教文化事典』等を参照しながら仏教文化のさまざまな領域について幅広い視野をもっておくこと。		

授業内課題のフィードバックの方法	各回の授業終了時に、残された課題や疑問について宿題を課し次の授業において確認する。				
準備学習（予習）	前週に指示された課題ならびに該当授業に関するテーマについて関連する本等を読んでおくこと。				
準備学習（復習）	授業で学習した内容について、理解できなかったところについて、再確認し、不足部分を補っておくこと。				
ディプロマポリシー	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化に関する研究成果を広く社会に発信できる人材の養成。		
学修指針	教養力	人間性	専門力	技術力	実践力
科目の該当		△	○	◎	○
関連科目	仏教文化特殊講義				
その他					

科目名称	仏典講読	科目分類	401-330-11
担当教員	安藤 嘉則	授業区分	講義
研究室	10-505	オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:00 後期 火曜日 09:00～12:00
授業のテーマ・内容	インド・中国・日本で撰述された典籍の中から仏教文化の特定のテーマについて重要な記述がなされている部分を取り上げて講読する。		
到達目標	漢訳仏典ならびに日本の仏教典籍について辞書を用いながら資料解読ができ、論文の素材として利用できる力を身につけること。		
各回の授業内容と課題学習			
<p>1, 仏典の成立</p> <p>2, 仏典の種類と教義的相違</p> <p>3, インドの仏典 1 原始仏教聖典</p> <p>4, インドの仏典 2 大乘仏教経典の概要</p> <p>5, インドの仏典 3 法華経</p> <p>6, インドの仏典 4 華嚴経</p> <p>7, インドの仏典 5 浄土経典</p> <p>8, インドの仏典 6 般若経典</p> <p>9, インドの仏典 7 密教経典</p> <p>10, インドの仏典 8 陀羅尼</p> <p>11, 中国の仏典 1 摩訶止観</p> <p>12, 中国の仏典 2 天台小止観</p> <p>13, 中国の仏典 3 大智度論</p> <p>14, 中国の仏典 4 臨濟録</p> <p>15, 中国の仏典 5 従容録</p> <p>16, 日本の仏典 1 往生要集 1・作品の時代背景</p> <p>17, 日本の仏典 2 往生要集 2・厭離穢土</p> <p>18, 日本の仏典 3 往生要集 3・欣求浄土</p> <p>19, 日本の仏典 4 三教指帰</p> <p>20, 日本の仏典 5 歎異抄</p> <p>21, 日本の禅語録 概論</p> <p>22, 日本の禅語録 1 正法眼蔵 1・弁道話</p> <p>23, 日本の禅語録 2 正法眼蔵 2・現成公案</p> <p>24, 日本の禅語録 3 正法眼蔵 3・仏性</p> <p>25, 日本の禅語録 4 正法眼蔵 4・八大人覺</p> <p>26, 日本の禅語録 5 普勸坐禅儀</p> <p>27, 日本の禅語録 6 永平広録 上堂</p> <p>28, 日本の禅語録 7 永平広録 小参</p> <p>29, 日本の禅語録 8 永平広録 偈頌</p> <p>30, 仏典にみる仏教思想の変遷</p>			
テキスト・教材	必要に応じてプリントを配布する。		
参考書	『仏典解題事典』春秋社		
評価の基準と方法	レポートによる評価。前期 50点、後期 50点。		
授業開始前学習	配布資料を予め読んでおくこと。		
授業内課題のフィードバックの方法	授業の15回目に提出するレポートについては、16回目の授業のときに講評を行い、個別の質問に回答する。		

準備学習（予習）	配付資料の仏典の書き下しを作成してくること。				
準備学習（復習）	演習で指摘された読み方の誤りについて確認しておくこと。				
ディプロマポリシー	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化に関する研究成果を広く社会に発信できる人材の養成。		
学修指針	教養力	人間性	専門力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○	△
関連科目	仏教文化演習				
その他					

☆日本文化論演習／禅文化演習

科目名称	☆日本文化論演習／禅文化演習	科目分類	401-320-21
担当教員	佐々木 俊道	授業区分	演習
研究室	10-504	オフィスアワー	前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10
授業のテーマ・内容	本講座は、各自の卒業論文の延長および新たな研究テーマに沿った、研究指導および修士論文作成指導を行う。		
到達目標	日本文化、特に宗教文化および仏教文化において、自らの専門領域に関する論文・文献・史料を読み解き、さらに評価・批判し創造的な学術的知見を発信することができる能力を身に付けることを目標とする。		
各回の授業内容と課題学習			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文の内容発表 2. 卒業論文の内容についての質疑応答 3. 問題点の整理 4. 修士論文の完成までの指針の作成 5. 修士論文の為に参考図書及び参考論文の提示 6. 参考資料・基本的文献・基礎資料の提示 7. 基礎資料の読解・基礎 8. 基礎資料の読解・応用 9. 基礎資料の読解・発展 10. 新たな問題点の整理 <ol style="list-style-type: none"> 11. 問題の所在を提示 12. 目次の整理 13. 内容の研究発表 14. 質疑応答 15. 関連する学会について 16. 学会活動をするための準備 17. 関連する学会誌の紹介 18. 資料検索の方法 19. 古文書の取り扱い方 20. 古文書の撮影について <ol style="list-style-type: none"> 21. 寺院資料の種類について 22. 博物館展示の方法と実践 23. 古文書読解の方法と技術 24. 禅の研究史・インド 25. 禅の研究史・中国 26. 日本の禅の研究史・中世 27. 日本の禅の研究史・近世 28. 日本の禅の研究史・明治期以降 29. 国際的な禅の展開・ヨーロッパと北米 30. 禅の課題と未来展望 			
テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配付。		
参考書	『日本文化研究』（駒沢女子大学日本文化研究所）、『仏教文化研究』（駒沢女子大学仏教文化研究会）。		
評価の基準と方法	演習時の研究発表におけるプレゼンテーション（50点）。演習時の研究発表で作成した資料・レジュメを文章化した論文（50点）。		
授業開始前学習	卒業論文等をもう一度読み直し、論文として適正な用語を使用しているか確認し、教養のある文章とはどのようなものか一考しておくこと。		
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、研究指導を行い、課題を見つけ、克服する為の道筋を提供する。特に13回目の研究発表、14回目の質疑応答によって、より学術的な水準の高い研究論文にしていく。発表資料に関しては、修正を加え返却する。		

準備学習（予習）	事前に与えられた内容について、仏教用語を辞書等で調べておくこと。				
準備学習（復習）	参考文献及び関係論文を探し出し、熟読し、問題点を整理すること。				
ディプロマポリシー	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化に関する研究成果を広く社会に発信できる人材の養成。		
学修指針	教養力	人間性	専門力	技術力	実践力
科目の該当		△	○	◎	○
関連科目					
その他	院生ならば当たり前であるが課題に真摯に向き合って、積極的に授業に取り組んで頂きたい。				

科目名称	☆古典講読／禅籍講読	科目分類	401-330-11
担当教員	三田 誠司	授業区分	講義
研究室	10-611	オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10
授業のテーマ・内容	『万葉集』巻第一を講読する。諸注釈を参照し、キーワードについては索引で用例を調査するなど、専門的な研究方法によって読みすすめ、『万葉集』研究の基礎を習得し、和歌文学について考察する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・『万葉集』巻第一に含まれる作品について、先行研究を適切に参照しつつ、説明することができる。 ・古典文学全般についての知識を深め、進んで文学研究を実践することができる。 		
各回の授業内容と課題学習			
<ol style="list-style-type: none"> 『万葉集』概説 『万葉集』巻第一 一番歌前半 『万葉集』巻第一 一番歌後半 『万葉集』巻第一 二番歌前半 『万葉集』巻第一 二番歌後半 『万葉集』巻第一 三番歌前半 『万葉集』巻第一 三番歌後半 『万葉集』巻第一 四番歌 『万葉集』巻第一 五番歌冒頭部 『万葉集』巻第一 五番歌中間部 『万葉集』巻第一 五番歌末尾部 『万葉集』巻第一 六番歌 『万葉集』巻第一 七番歌 『万葉集』巻第一 八番歌 『万葉集』巻第一 八番歌 左注 『万葉集』巻第一 九番歌 『万葉集』巻第一 十番歌 『万葉集』巻第一 十一番歌 『万葉集』巻第一 十二番歌 『万葉集』巻第一 十三番歌前半 『万葉集』巻第一 十三番歌後半 『万葉集』巻第一 十四番歌 『万葉集』巻第一 十五番歌 『万葉集』巻第一 十六番歌前半 『万葉集』巻第一 十六番歌後半 『万葉集』巻第一 十七番歌前半 『万葉集』巻第一 十七番歌後半 『万葉集』巻第一 十八番歌 『万葉集』巻第一 十九番歌 『万葉集』巻第一の配列 			
テキスト・教材	資料を配布（配信）する。		
参考書	『万葉集 1』（新編日本古典文学全集）他（授業時に指示する）		
評価の基準と方法	レポート（100%）によって判断する。 出席状況が思わしくない場合には、単位取得を認めない。		
授業開始前学習	『万葉集』に関する入門書を一読しておくこと。		
授業内課題のフィードバックの方法	授業後に疑問点や感想について提出させ、次回以降に回答する。		

準備学習（予習）	授業の範囲を一読し、現代語訳を施す。				
準備学習（復習）	授業の内容と感想を文章にまとめて提出する。				
ディプロマポリシー	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化に関する研究成果を広く社会に発信できる人材の養成。		
学修指針	教養力	人間性	専門力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	
関連科目					
その他					

科目名称	哲学特殊講義	科目分類	401-320-11
担当教員	佐々木 俊道	授業区分	講義
研究室	10-504	オフィスアワー	前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10
授業のテーマ・内容	本講義は、日本の仏教思想を中心に扱う。それにより日本文化の特質を明らかにしていく。なぜなら日本文化は仏教の影響を受けているからである。日本に仏教が伝来してから日本の土着宗教と融合・複合・混交してインド・中国とは異なる独自の日本仏教が！確立されて今日に至っている。そうした思想を古代ギリシャ以来、発展してきた西欧の哲学的アプローチを参考に現代的に再解釈を試みる。これにより比較文化的な視点を持つことが出来ると共に、まさに現代的な哲学を確立するための指標について考える。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.日本文化の特性について考察するための指標を持つことが出来る。 2. 日本の将来について変革すべき事象と受け継がなければならない事象を考察することが出来るようになる。 3.世界に向けて日本文化を発信することが出来る資質を有する人材を育成する能力を獲得することが出来るようになる。 		
各回の授業内容と課題学習			
<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の進め方と資料紹介 2 日本の土着宗教について 3 日本的アニミズムについて 4 日本人の靈魂観と他界観について 5 仏教の伝来と日本文化について 7 奈良時代の国家仏教と「蓮華蔵世界観」について 8 最澄の一乗思想について 9 空海の「即身成仏」と密教的世界観 10 浄土思想の展開－恵心僧都源信と「観相念仏」 11 天台本覚思想と「草木成仏」 12 浄土思想の展開－法然と「称名念仏」 13 浄土思想の展開－親鸞と「絶対他力」・「自然法爾」 14 禅の展開－臨済宗の坐禅観と日本文化への影響 15 禅の展開－道元の「修証観」 16 日蓮の国家観について 17 日本人の祖先崇拝と葬祭儀礼 18 真宗教団の地方展開について 19 曹洞宗の地方展開について 20 禅と道について 21 禅文化と芸術について 23 禅文化と芸術について 24 仏教と芸能について 25 仏教と江戸庶民文化について 26 廃仏毀釈について 27 仏教と教育について 28 仏教的な美意識について 29 仏教と環境問題について 30 研究発表 			
テキスト・教材	『天台本覚論』岩波日本思想大系		
参考書	授業で紹介する。		
評価の基準と方法	中間と期末発表における学生の達成度（30点）。論文のオリジナリティと完成度（70点）。		
授業開始前学習	仏教と日本文化に関する概論的な書籍を読んでおくこと。		

授業内課題のフィードバックの方法	毎回、疑問点や課題を話し合い、教員からもコメントして問題意識を共有する。中間と期末発表後も、教員が学生にフィードバックをする。				
準備学習（予習）	資料を読むこと。				
準備学習（復習）	参考文献を読むこと。				
ディプロマポリシー	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。	仏教文化に関する研究成果を広く社会に発信できる人材の養成。		
学修指針	教養力	人間性	専門力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	
関連科目					
その他					

科目名称	☆日本文化実習	科目分類	401-330-21
担当教員	安藤 嘉則	授業区分	実習
研究室	10-505	オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:00 後期 火曜日 09:00～12:00
授業のテーマ・内容	本実習は、寺院・神社への実地調査、ならびに寺史、神社史等の資料をふまえ、日本の寺院・神社の特徴を明らかにし、そこから見えてくる日本の宗教文化を考察する。具体的には東京都、神奈川県、奈良・京都の寺院・神社について実地調査をするとともに奈良・京都の寺院・神社の資料も参照し、仏教と神道のそれぞれの特徴や両者の関係性について理解する。		
到達目標	日本文化を研究するための調査方法を身につける。		
各回の授業内容と課題学習			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 本授業の予定と目的を説明する 2. 日本における仏教と神道の関係について学ぶ 3. 古代から近世までの神仏習合について調べる 4. 近代における廃仏毀釈の影響について調べる 5. 多摩地域で調査する寺院・神社の選定と資料を収集する 6. 多摩地域の寺院に関する文献資料を調べる 7. 多摩地域の神社に関する文献資料を調べる 8. 多摩地域の寺院・神社を実地調査する 9. 多摩地域の寺院・神社の実地調査に基づいてその文化的特徴を考察する 10. 多摩地域の寺院・神社についてその文化的特徴を発表する。 11. 東京都心で調査する寺院・神社の選定と資料を収集する 12. 東京都心の寺院に関する文献資料を調べる 13. 東京都心の神社に関する文献資料を調べる 14. 東京都心の寺院・神社について実地調査をする 15. 東京都心の寺院・神社の実地調査に基づいてその文化的特徴を考察する 16. 東京都心の寺院・神社についてその文化的特徴を発表する。 17. 東京都内の寺院・神社の文化的特徴についてまとめる 18. 鎌倉で調査する寺院・神社の選定と資料を収集する 19. 鎌倉の寺院に関する文献資料を調べる 20. 鎌倉の神社に関する文献資料を調べる 21. 鎌倉の寺院・神社を実地調査をする 22. 鎌倉の寺院・神社の実地調査に基づいてその文化的特徴を考察する 23. 鎌倉の寺院・神社についてその文化的特徴を発表する 24. 京都の寺院に関する文献資料を調べる 25. 京都の神社に関する文献資料を調べる 26. 奈良の寺院に関する文献資料を調べる 27. 奈良の神社に関する文献資料を調べる 28. 授業で取り上げた寺院・神社の文化的特徴から日本の宗教文化の特徴について考える 29. 日本の宗教文化の特徴についてまとめる 30. 日本の宗教文化の特徴について発表する 			
テキスト・教材	必要に応じてプリントを配付する。		
参考書	鎌倉市、東京都、京都府、奈良県の寺院・神社に関する図書		
評価の基準と方法	レポートで評価を行う。配点（100点満点における）は平常点 50 点、レポート 50 点の配分とする。		
授業開始前学習	事前に配布された資料や紹介された参考書を精読しておく。		
授業内課題のフィードバックの方法	作成したレポートについて、提出した次の授業にて講評し、質問に回答する。		

準備学習（予習）	図書館・博物館等の基礎情報を修得する。				
準備学習（復習）	実習を通じて修得した知識などを整理する。				
ディプロマポリシー	仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。		仏教文化の専門領域において、創造的研究を進めていくことができる能力の育成。		仏教文化に関する研究成果を広く社会に発信できる人材の養成。
学修指針	教養力	人間性	専門力	技術力	実践力
科目の該当			△	○	◎
関連科目					
その他	本実習は、2年間の履修となる。東京都心・多摩地域・鎌倉の寺社を見学する正課学外活動を3回予定している。				